

「MM教育における『交通バリアフリー』」

埼玉大学教育学部准教授 桐谷 正信

MM教育の実践は着実に増えてきています。交通や環境といった課題は、人間社会において極めて重要な課題です。しかし、MM教育は、高齢者や障がいのある人々が豊かに生きられるための交通/社会の構築といった課題にも有効な教育だといえます。

このような課題に取り組んだ実践として、埼玉県吉川市立中曽根小学校6年生を対象とした実践(浜口梢教諭)があります。自動車を自由に利用できず、移動を公共交通に頼らざるをえない高齢者や子どもといった「交通弱者」の存在から、地域の公共交通のあり方を追求した実践です。学区内に新設されたJR武蔵野線の新駅(「吉川美南駅」)周辺の新たなバス路線を、「子どもからお年寄りの方まで」という「交通弱者」の視点から捉え、「地域に目を向け、そこに住む住人としてまちのあり方を常に考え、積極的に地域社会に働きかける態度を育成する」ことを目標とした実践です。この「子どもからお年寄りの方まで」という「交通弱者」の視点は、誰もが行きたい所に自由にいけるという「交通バリアフリー」視点です。この「交通バリアフリー」の視点から、子どもたちが、新しいバス路線を作成したり、バス車両の工夫を考えたり、道路のあり方を考える学習が展開されました。子どもたちが考えた「交通まちづくり」案を、吉川市役所政策室担当者に提案する社会参加型の学習です。

このように、さまざまな「社会的ジレンマ」問題を、交通を切り口に解決していこうとするMM教育は、もっと幅広く展開されていくことが期待されています。